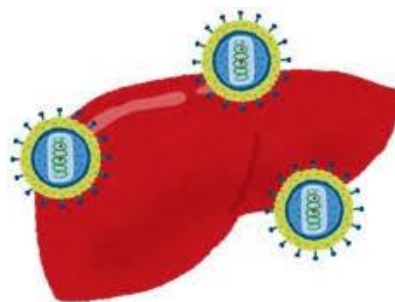


## 脂肪肝と肝臓癌

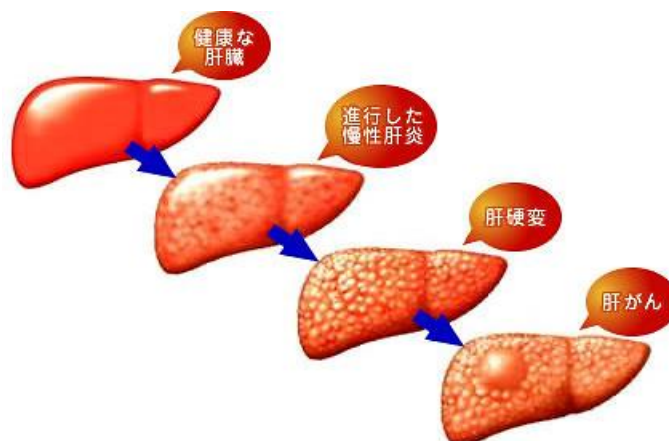
医療法人 小金井中央病院  
副院長 藤原 岳人

### 肝炎と肝臓癌

B型・C型肝炎ウイルスによる肝炎が原因で肝硬変に至り、その結果肝臓癌が発生することは以前より知られています。近年は治療薬の発展によりウイルス性肝炎は減少してきました。そのため最近ではB型肝炎由来でもC型肝炎由来でもない肝臓癌（非B非C肝臓癌）の割合が増加しています。



最近の実態調査の結果では非B非C肝臓癌患者さんの割合が10%以下から32%に増加し、その多くが肥満や飲酒を背景とした生活習慣病関連肝疾患であるといわれています。このうち「中等度の飲酒を行う肝機能正常の患者さん」と「非飲酒肥満男性でメタボリックシンドロームの患者さん」の割合が増加しています。女性では9割がアルコールをほとんど飲まない非アルコール性脂肪肝炎の患者さんでした。



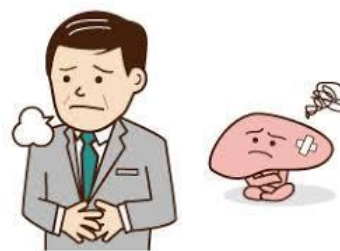
肝臓癌の治療効果は5年生存率で46.4%と以前より改善傾向ではありますが、未だ十分とは言えず、肝臓癌にならない・肝硬変にならないことが重要となります。



## 糖尿病と肝臓癌

非アルコール性脂肪肝疾患（NAFLD）は2012年全国で検診を受けた方の約3割（男性では4割）に認めました。その中でも特に要注意なのが糖尿病を合併した方です。

脂肪肝が進行して肝硬変となる危険因子として①体重増加、②糖尿病が知られています。糖尿病患者さんでは肝線維化（肝硬変に近づく）の進展が特に早いと言われています。日本糖尿病学会と日本癌学会による調査では糖尿病患者さんの肝臓癌リスクは非糖尿病患者さんに比べ約2倍と報告しています。



糖尿病の3大合併症には「糖尿病網膜症（目の病気）」、「糖尿病腎症（腎不全）」、「糖尿病神経障害（手足のしびれなど）」がありますが、脂肪肝を合併している方では肝硬変・肝臓癌にも要注意です。



「糖尿病なら脂肪肝は仕方ない。」ではダメです。適切な検査・治療を受けましょう。

## 認知症の高齢者への接し方

医療法人 小金井中央病院  
南棟 看護師長 中嶋 章子

### 認知症とは

病気や怪我などの後天的要因によって、いったん獲得した知的能力が低下し日常生活に支障をきたす状態を言います。認知症では記憶が障害されても感情は失われていないため、子供扱いや無視、叱るなど、プライドを傷つけるようなことはしないのが大原則です。高齢者に対しては、常に尊厳を持った態度で接し、その発言に対してはまず肯定をして受容しましょう。

### 接し方の一例

#### 物忘れ ～しまった場所を忘れてしまう～

大切なものをしまい忘れることがあります。ご家族なら置き場所を知っているときもあるでしょう。そんなときは「それは困りましたね。一緒に探しましょうか」と話してみましましょう。一緒に探しながら自分で見つけてもらうように誘導し、見つかった際には「良かったですね」と喜びを共感しましょう。



#### 見当識障害 ～日付の間隔を忘れてしまう～

今日がいつなのか忘れてしまい「今日は何日だっけ?」「何曜日だった?」などと何度も聞いてくることがあります。日めくりカレンダーを用意してみましましょう。朝起きたときなどに一緒にめくりながら「今日は〇日ですね」と声掛けしてみましましょう。

#### 被害妄想 ～いないはずの誰かに不安を感じてしまう～

「あそこに泥棒がいる」「家の中に悪い人がいる」など不安を訴えてくることがあります。「私がいるから大丈夫ですよ」「警察に連絡したから安心ですよ」泥棒を捕まえてきます」と話して安心感を与えましょう。



## 性格変化 ～急に怒り出す～

認知症の高齢者の中には急に怒り出したりすることがあります。時には暴言や暴力に発展することもあります。そんなときはまず冷静になりましょう。すぐに対処しようとせず、少し距離を取り、危険行動がないか見守りましょう。



## 問題行動 ～失禁した汚物をいじってしまう～

失禁や、汚物をいじるなどの不潔行為の多くは失敗したことを隠したいという羞恥心の表れです。叱責したりせず、ご本人の自尊心を傷つけないことが大切です。失禁の予防として、何時間置きかにトイレに誘導するのも一つの方法です。

## 徘徊 ～一人でどこかへ行ってしまう～

徘徊の理由は人によって様々です。物忘れや場所がわからない、あるいは何かの不安で飛び出してしまったのかもしれませんが、気づかないうちに外に出て行ってしまう場合に備え、鈴などを利用して、玄関の扉が開くと音がするなどの工夫をしたりするのも一つです。個人の住所や連絡先が書いてあるメモなどを、普段持ち歩いているものの中に入れておくことも大切です。



上にあげたものは、ほんの一例です。大切なのは認知症の方も介護者も穏やかな時間を過ごせることです。

無理のない自分なりの介護を確立していきましょう。